八出て廻れ、私はちやわらな。めくならこそはちわりまする

九出て廻れ、私くわうたな。百姓ならこそくわうちまする

十出て廻れ、私字はかゝな。先生ならこそ字をかきまする

同上子守歌

一ツトヤーヒトノカガミトナルヤウニナルヤウニ
ガクモンハゲミテオコタルナオコタルナ
二ツトヤーフミヨムコトヲシラザレバシラザレバ
マナコアレドモコウハナシコウハナシ
三ツトヤーミメハヒトナミスグレテモスグレテモ
マナバニヤミノナキヤヘザクラヤヘザクラ
四ツトヤーヨルヒルタヘセヌタニノミヅタニノミ
ヅツイニハハテナキウミトナル

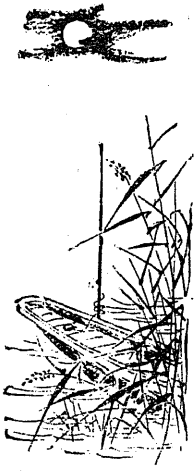
五ツトヤーイマハムカシトホシウツリホシウツリ
ヒトノコウカモチヘシダイチヘシダイ
六ツトヤームヅカシトテマナバズバマナバズバイ
カナルコトヲモナシガタシナシガタシ
七ツトヤーナンギハワガミヲタマニスルタマニス
ルトイシトオモウテットムベシットムベシ
八ツトヤーヤマナカソダテノシヅノメモシツノメ
モマナビシダイニキレウアリキレウアリ
九ツトヤーコヽロニヲチエヌコトガラハセンギニ
セニギヲカサヌベシ
十トヤートキヲヲシミテオコタルナオコタルナフ
タタビカヘラヌヒカリナシヒカリナシ

肥後の手毬歌（座り打ち）

合志章子

一つ―では乳を呑み初め二つ―では乳をはなれて

三つーでは水を汲みそめ四つーでは夜なべしそめ五つーでは糸をとりそめ六つーではころ機織りそめ七つでーは綾を織りそめ八つーでは屋敷ひろめて九つーでは心定めて十ーでとのごをもーたーせた十一ーで花の樣なる御子をもーたせた十二ーで其のおー子のお宮まいりにや宮の下から。水がどんどーとと出ーてきて、其の水にや何を流そか赤ひ小袖をなーがしてま一ーつーは何を流がそか黑ひ小袖をなーがしたひーほー一つき



六月(みなつき)

せく生

「みな月」とは、六月の昔の名である。今でも歌を咏む場合等には、矢張此の語を用ふ者がある。何故六月が「みな月」といはれたか。其の譯は鎌倉時代の歌仙藤原淸輔が、初めて二樣に考へたのである。一っは、此の月は農夫が事を爲盡した月即「みなしつき」であるから、其れを訛つて「みなつき」といふのであるといひ、一っは此の月は年中で尤も暑くつて水の源が涸れ盡きて、田にも水が無